震災を乗り越え持続可能な未来を創造する人材育成プログラム

Sustainable Development Goals

学校

・地域愛，地域貢献意欲
・自尊感情，自ら関わろうとする力
・対話力，共感力，合意形成力　を伸ばす

持続可能な地域未来の創造

地域

・地域を良くしたいという情熱と信念を有する人材
・自己の役割を認識し主体的に地域課題に向き合う人材
・多様な人々を巻き込んで地域課題に取り組む人材
を育てる

【学校における取り組み】

総合的な学習・探究の時間

■ SDG s 地域課題研究　■ 職業人インタビュー
■ 自己・職業・社会理解講座　■ 地域理解講座
■ インターンシップ

教育課程外の活動

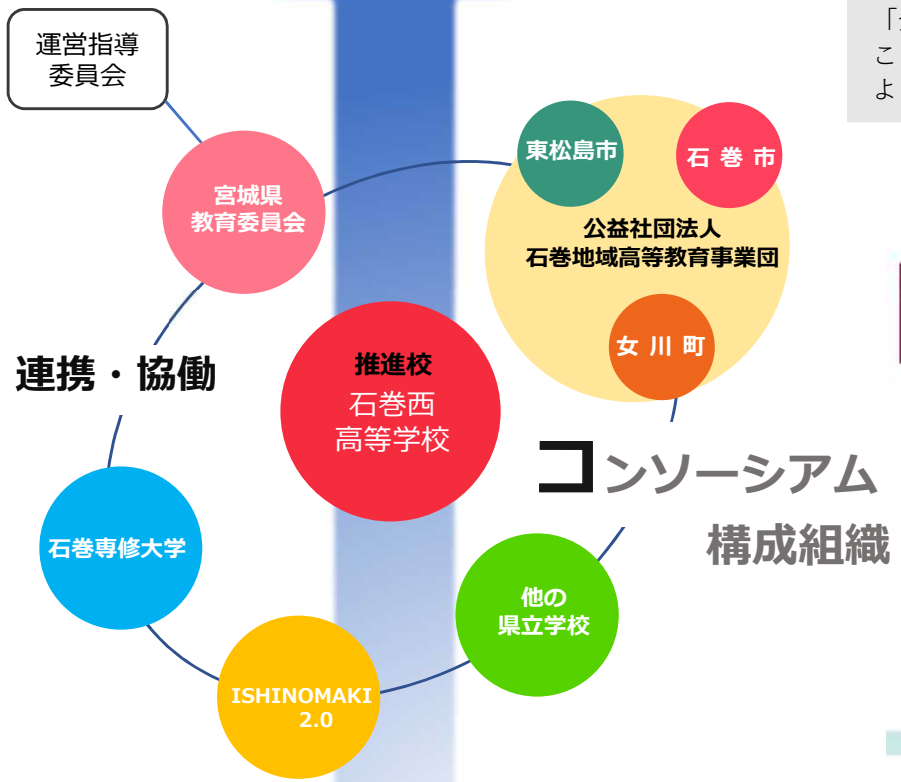
■ 地域支援ボランティア活動
■ 小学生の学習支援
■ 地域理解講座・課題研究におけるフィールドワーク

教科・科目

■ 現代社会　■ 社会と情報　■ 環境と科学
■ 地理A・地理B・地理探究　■ 国語総合

その他

■ まなびフォーラム　■ 研究成果の普及



ＳＤＧｓ未来都市東松島（東松島市）

「全世代グロウアップシティ東松島」として、こども・若者・高齢者の全世代にわたって住みよいまちづくりを目指す

高校生の課題

・自尊感情・自己肯定感の弱さ
・失敗や困難を回避する傾向
・当事者意識・主体性のなさ

希薄な関わり

地域社会の課題

震災以降の
・著しい人口流出
・コミュニティの崩壊
・小中学生の学力・体力の低下

ふりがな	みやぎけんきょういくいいんかい	ふりがな	みやぎけんいしのまきにしこうとうがっこう
管理機関名	宮城県教育委員会	学校名	宮城県石巻西高等学校

２０１９年度　地域との協働による高等学校教育改革推進事業　実施体制の概要

１　管理機関・学校の概要

（１）管理機関名、代表者名

管理機関名：宮城県教育委員会
代 表 者 名：伊東　昭代

（２）学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：宮城県石巻西高等学校　　学科：■普通科　□専門学科　□総合学科
校長名：菅野　定行

２　取組内容

（１）目的・目標

震災を乗り越え，石巻地域の復興・発展を担う人材，持続可能な未来を創造する人材を育成したい。そのために求められる地域人材を次のように規定した。

イ　地域を良くしたいという情熱と信念を有する人材
ロ　自己の役割を認識し，当事者として主体的に地域課題に向き合う人材
ハ　多様な人々のモチベーションを高め，人々を巻き込んで地域課題に取り組む人材

このような人材になるために高校卒業までに習得させる資質・能力を，次のように規定した。

イ　地域愛，地域貢献意欲
ロ　自尊感情，自ら関わろうとする力
ハ　対話力，共感力，合意形成力

（２）現状の分析と研究開発の仮説

イ　震災の影響

震災後，東松島市の４５％が浸水。人口流出も急激に進んだ。復興住宅の建築等のハード面の整備は進んだものの，コミュニティの崩壊が急速に進行しており，地域を担う人材の育成は当地域の大きな課題となっている。

ロ　当該校生徒の強み・弱み

生徒はまじめで社会規範意識の高い者が多いが，失敗を回避し安易な進路選択に流れる傾向もみられる。高校入学段階での将来の展望が希薄な者が多いため，高校におけるキャリア教育を通して職業観・勤労観を育成することも大きな課題である。

ハ　現在の石巻地域の状況

震災後，当地域には自治体への派遣職員やＮＰＯ団体の職員など外部の優秀な人材が数多く進出している。また，ＳＤＧｓ未来都市に選定された東松島市は「人口減少を食い止め，地域社会・経済を成長軌道に乗せること」を目指している。地域課題を題材として体験と実践を伴った探究的な学びに取り組むための環境に恵まれている。

ニ　地域課題・地域ビジョンの共有

コンソーシアムを形成する公益社団法人石巻地域高等教育事業団や，主に石巻地域の企業で形成される石巻産学官グループ交流会の関係者と石巻地域の課題およびその課題克服の方策について情報交換を行ってきた。東松島市のＳＤＧｓ未来都市選定は，当地域の課題が地域住民に広く共有されるきっかけとなっている。

（３）分析を踏まえた仮説

学校と地域とが連携・協働する取組と学校内の取組とが全体として機能する体制を作り，カリキュラムを再構成することで，

イ　高校卒業までに「地域愛，地域貢献意欲，自尊感情，自ら関わろうとする力，対話力，共

感力，合意形成力」を身に付けさせることができる。

ロ　数値目標：平成３２年３月までにそれぞれの力が身についたと考える生徒の割合が５０％を超える。

（４）学習の実施計画

イ　総合的な探究の時間（１年）

自己理解講座，職業・社会理解講座，職業人インタビュー及びインターンシップ等を通して，地域社会と関わりながら，勤労観・職業観や主体的に探究する資質や能力を身に付ける。

ロ　総合的な学習の時間（２，３年）

ＳＤＧｓ地域課題研究や地域理解講座を通して，地域社会と関わりながら，地域課題に対して，主体的に探究する資質や能力を身に付ける。

ハ　教科・科目

現代の諸課題を理解するとともに，課題研究に必要となるスキルを習得する。

二　課外活動

〇地域支援ボランティア活動

希望者による活動。地域行事補助，震災復興事業補助活動を実施する。

〇小学校での学習支援活動

希望者による活動。夏季休業中，石巻市立釜小学校において実施する。

〇地域理解講座（２年）発展フィールドワーク

「地域理解講座」を受講後，さらに発展した探究活動を希望する生徒が行うフィールドワーク。自ら課題を設定し，生徒が主体となって地域や大学等と連携して学びを深める。

〇ＳＤＧｓ地域課題研究（３年）発展フィールドワーク

「ＳＤＧｓ地域課題研究」の後，さらに発展的な探究活動を希望する生徒が行うフィールドワーク。自ら課題を設定し，生徒が主体となって地域や大学等と連携して学びを深める。

（５）学習の成果は，以下の方法で公表，普及する

石巻西高校における「総学課題研究発表会，まなびフォーラム，みやぎ高校生フォーラム，学校便り『西高実況中継』，公開授業」及びＨＰ。また，石巻専修大学，一般社団法人ISHINOMAKI2.0，東松島市においても成果を発表する場を設け，将来的には圏域全体での連携・協働を目指す。申請事業終了後もコンソーシアムにより，地域協働学習活動を推進する。

（６）カリキュラム・マネジメントの推進体制

石巻西高等学校に設置する地域協働推進委員会が，カリキュラム開発等専門家との連携のもと，総合的な学習（探究）の時間をはじめとする教育活動を系統的に実践し，地域人材を育成できる教育課程の開発を推進する。

３　管理・運営方法

（１）高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
宮城県教育委員会（管理機関）	伊東　昭代
宮城県石巻西高等学校，圏域内県立学校	菅野　定行
石巻専修大学	尾池　　守
公益社団法人石巻地域高等教育事業団（石巻市，東松島市，女川町）	亀山　　紘
一般社団法人 ISHINOMAKI2.0	松村　豪太

〇本年７月に，石巻地域高等教育事業団，石巻専修大学，石巻西高等学校はじめ圏域内県立学校の間でコンソーシアムを設立する。

（２）将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

石巻地域は東日本大震災により甚大な被害を受け，震災後は人口流出，地域の衰退，コミュニティの崩壊等への対応が喫緊の課題となっている。また，同地域の小・中学校では，学力・体力の低下といった課題も顕在化している。その一方で，震災を契機に自治体の派遣職員やＮＰＯ職員等に外部の

優秀な人材が集まり，新たなことに挑戦しようとする機運が地域住民に現れてきたことに加え，圏域内の東松島市が２０１８年６月にＳＤＧｓ未来都市に選定され，地域全体が復興に向けて未来志向型の地域を再構築しようとする雰囲気が見られる。

本研究により，学校と地域とが連携・協働する取組を教育課程に組み込み，「社会に開かれた教育課程」を展開することで，自尊感情，関わろうとする力，対話力，共感力，合意形成力等を育成することを目的とする。今年度は，高校卒業時にこれらの力が「身に付いた」と感じる生徒が５０％を超えることを目標とする。将来，これらの人材が石巻地域に定着し，被災地の復興・発展に貢献するとともに，持続可能な未来社会を創造することを期待する。

石巻地域高等教育事業団では毎年，大学と圏域高等学校との連携及び地域社会における教育文化の振興を目指し「石巻専修大学と圏域高等学校との懇談会」を開催している。この場を活用し，行政・大学・高校が将来の地域ビジョンについての情報共有を行っている。また，ISHINOMAKI2.0 は地域の若者を取り込むさまざまなイベントを行っており，学校とも連携して生徒のキャリア教育事業を実施しており，それらの機会に学校関係者と将来の地域ビジョンについて情報共有を行っている。

（３）コンソーシアムにおける研究開発体制

宮城県教育委員会が管理機関となり，コンソーシアムを構成する。構成団体には石巻専修大学，石巻高等教育事業団（石巻市，東松島市，女川町），石巻西高校，圏域内の他の県立学校が含まれる。また，各プログラムを企画・運営する協力団体として一般社団法人 ISHINOMAKI2.0 も研究に加わる。

石巻専修大学及び ISHINOMAKI2.0，東北学院大学地域共生推進機構，東松島市役所からカリキュラム開発等専門家を選び，石巻西高校内の地域協働推進委員と連携して事業の企画，運営を行い，成果の検証等も行う。また，石巻西高校，石巻専修大学，東松島市，ISHINOMAKI2.0 がそれぞれ成果の発表の場を設ける。学校教育に関わる部分は石巻西高校で研究開発を行い，コンソーシアムを介してその成果を他校へ普及していく。また，地域教育に関わる部分は ISHINOMAKI2.0 が主体となって事業を運営し，圏域内の各校が事業に生徒を送り込む体制を整える。

（４）カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローカル型）の指定及び配置計画

以下の通りとする。いずれも本事業開始時から協力可能である。

〇石巻専修大学　事務部次長　高橋　郁雄
〇東北学院大学地域共生推進機構　特任准教授　菊池　広人
〇一般社団法人 ISHINOMAKI2.0　理事・いしのまき学校事業担当　斉藤　誠太郎
〇東松島市総務部地域創生推進室　次長　永野　慎一

（５）地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

ISHINOMAKI2.0 において，職員が「総合的な学習（探究）の時間」をはじめとする，地域協働学習活動における外部機関とのコーディネート等の役割を担う。

（６）運営指導委員会の体制

以下の通りとする。専門的かつ実践的な見地から指導をいただける有識者を中心に選定する。

〇東北大学大学院環境科学研究科　教授　吉岡　敏明
〇宮城大学事業構想学群　准教授　佐々木　秀之
〇株式会社橋本道路　社長（東松島市商工会会長）橋本　孝一
〇石巻商工信用組合　常勤理事　熱海　英俊

（７）研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

年度ごとに成果を公表・発表する機会を設定し，運営指導委員や地域の有識者等の指導・助言を受ける。成果発表の場は，石巻西高校，石巻専修大学，ISHINOMAKI2.0，東松島市がそれぞれ設けるほか，積極的に各種フォーラム・研究会等に参加する。また，年に数回実施するアンケート調査を用いて達成度を測る（ISHINOMAKI2.0 が開発した「社会で必要な能力と価値観のアンケート」を利用する）。このアンケートで，身に付けさせたい資質・能力等を身に付けたと感じる生徒の割合を測定する（今

年度の目標値：各項目で５０％）。この数値はコンソーシアム構成団体のみならず，ＰＴＡ・地域住民とも共有し，地域教育の改善の材料として活用する予定である。

以上の情報をもとに該当年度の取組を検証し，修正を加え，次年度の事業展開に活かす。将来的には圏域全体で学校での教育と地域における教育とが協働的に行われる姿を目指す。

（８）管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

①学校が地域に生徒を送り出す準備として行う取組

イ　自己理解講座　ワークシートを用いて，自分の強み・弱み及び興味関心から自分と学問及び自分と社会との関わりについてグループワークを行い，理解する。

ロ　職業・社会理解講座　ワークシートを用いて，各職業のやりがいや将来展望，及び関連する社会的トピックについてグループワークを行い，理解する。

②学校が地域の支援を受けて行う取組

イ　職業人インタビュー・ミライブラリー　地域の社会人を講師として招き，インタビューを行う。社会人１名を５名程度の生徒が囲み交流する。

ロ　ＳＤＧｓ地域課題研究　ＳＤＧｓ未来都市に選定された東松島市が抱える課題について研究活動を行い，東松島市が目指す「全世代に住みよいまちづくり」に自治体や地域住民と協働して取り組む。この活動を通して身に付けた「探究する力，論理的に思考する力」を教科科目の学習等の学校での学びに活かす。将来社会に出て他の課題に直面した際にも解決できるようにする。

③学校が地域に生徒を送り出す取組

イ　インターンシップ　地域の各企業や施設等の就業規則に従い，６～８時間の就業を行う。

ロ　地域理解講座　地域の社会人，大学生，ＮＰＯ職員等を講師に高校生の学ぶ意欲を引き出すことを目的とした講座を多様なテーマで設定し，生徒が地域へ出て課題解決学習を行う。

ハ　地域支援ボランティア活動　地域におけるボランティア活動

ニ　地域理解講座発展フィールドワーク　「地域理解講座」を受講後，さらに発展した探究を希望する生徒が行うフィールドワーク。希望内容に応じ自ら地域や大学等と連携し探究を深める。

ホ　ＳＤＧｓ地域課題研究発展フィールドワーク　「ＳＤＧｓ地域課題研究」（３年）の研究を進める際に，必要に応じて行うフィールドワーク。希望する内容に応じ地域や大学等と連携し，研究を深める。

（９）事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

事業終了後も石巻専修大学をコンソーシアムの中核として地域事業を継続する。石巻西高校で継続的に研究開発を行い，その成果をコンソーシアム経由で他校へ普及し，圏域全ての高校で地域協働事業が展開されることを目指す。また，地域教育部門はISHINOMAKI2.0が企画・運営にあたり，圏域内の高校から積極的に参加できるようにすることを目指す。

２０１９年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

<table>
<tr><td>指定期間</td><td>ふりがな</td><td colspan="4">みやぎけんいしのまきにしこうとうがっこう</td><td rowspan="2">②所在都道府県</td><td rowspan="2">宮城県</td></tr>
<tr><td>2019～2021</td><td>①　学校名</td><td colspan="4">宮城県石巻西高等学校</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②　対象学科名</td><td colspan="5">④対象とする生徒数</td><td colspan="2">⑤学校全体の規模</td></tr>
<tr><td>１年</td><td>２年</td><td>３年</td><td>４年</td><td>計</td><td colspan="2" rowspan="3">全校生徒を対象に実施</td></tr>
<tr><td>普通科</td><td>１６０</td><td>１６０</td><td>１９９</td><td></td><td>５１９</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>⑥研究開発構想名</td><td colspan="7">震災を乗り越え持続可能な未来を創造する人材育成プログラム</td></tr>
<tr><td>⑦研究開発の概要</td><td colspan="7">当該校，石巻専修大学及び公益社団法人石巻地域高等教育事業団を中心にコンソーシアムを構築し，地域人材を活用した協働的な取り組みを通して地域課題を理解する学習や，それらの解決に向けた研究に取り組む。本研究を通して当該校の教育課程の再構成をはかるとともに，地域人材を育成できる教育課程の開発と普及を図り，被災地の復興・発展の担い手である，持続可能な未来社会を創造する人材を育成する。
具体的な取り組みとしては，総合的な学習（探究）の時間を中心に，地域・社会理解活動，地域交流活動，ＳＤＧｓ地域課題研究活動等のプログラムを実施する。また，学校設定科目を含む教科・科目において地域理解学習，ＳＤＧｓ学習を実践するとともに，課題研究スキルの習得も行う。教育課程外の活動においても地域との交流・連携活動を実施する。</td></tr>
<tr><td>⑧研究開発の内容等</td><td>⑧-1全体</td><td colspan="6">⑴ 目的・目標
震災を乗り越え，石巻地域の復興・発展を担う人材，持続可能な未来を創造する人材を育成したい。そのために求められる地域人材を次のように規定した。
イ　地域を良くしたいという情熱と信念を有する人材
ロ　自己の役割を認識し，当事者として主体的に地域課題に向き合う人材
ハ　多様な人々のモチベーションを高め，人々を巻き込んで地域課題に取り組む人材
将来このような人材になるために高校卒業までに習得させる資質・能力を，次のように規定した。
イ　地域愛，地域貢献意欲
ロ　自尊感情，自ら関わろうとする力
ハ　対話力，共感力，合意形成力
⑵ 現状の分析と研究開発の仮説
〇現状の分析
イ　震災の影響　震災後，東松島市の４５％が浸水。人口流出も急激に進んだ。復興住宅の建築等のハード面の整備は進んだものの，コミュニティの崩壊が急速に進行しており，地域を担う人材の育成は当地域の大きな課題となっている。
ロ　当該校生徒の強み・弱み　まじめで社会規範意識の高い者が多いが，失敗を回避し安易な進路選択に流れる傾向も持つ。高校入学段階での将来の展望が希薄な者が多いため，キャリア教育を通して職業観・勤労観を育成することも大きな課題である。
ハ　現在の石巻地域の状況　震災後，当地域には自治体への派遣職員やＮＰＯ団体の職員など外部の優秀な人材が数多く進出している。また，ＳＤＧｓ未来都市に選定された東松島市は「人口減少を食い止め，地域社会・経済を成長軌道に乗せること」を目指している。地域課題を題材として体験と実践を伴った探究的な学びに取り組むための環境に恵まれている。
ニ　地域課題・地域ビジョンの共有　コンソーシアムを形成する公益社団法人石巻地域高等教育事業団や主に石巻地域の企業で形成される石巻産学官グループ交流会の関係者と石巻地域の課題およびその課題克服の方策について情報交換を行ってきた。東松島市のＳＤＧｓ未来都市選定は，当地域の課題が地域住民に広く共有される</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td></td><td>きっかけとなっている。
〇分析を踏まえた仮説
学校と地域とが連携・協働する取組と学校内の取組とが全体として機能する体制を作り，カリキュラムを再構成することができれば，
イ　高校卒業までに「地域愛，地域貢献意欲，自尊感情，自ら関わろうとする力，対話力，共感力，合意形成力」を身に付けさせることができる。
ロ　具体的には，それぞれの力が身についたと考える生徒の割合が，１年目５０％，２年目７０％，３年目８０％を超えることができる。</td></tr>
<tr><td></td><td>⑧-2
具体的内容</td><td>**(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画**
イ　総合的な探究の時間（１年）
「自己理解講座，職業・社会理解講座，職業人インタビュー及びインターンシップ」等を通して，地域社会と関わりながら，勤労観・職業観や主体的に探究する資質や能力を身に付ける。
ロ　総合的な学習の時間（２，３年）
「ＳＤＧｓ地域課題研究や地域理解講座」を通して，地域社会と関わりながら，地域課題に対して，主体的に探究する資質や能力を身に付ける。
ハ　教科・科目
現代の諸課題を理解するとともに，課題研究に必要となるスキルを習得する。
二　課外活動
地域支援ボランティア活動　希望者による活動。地域行事補助，震災復興事業補助活動を実施する。
小学校での学習支援活動　希望者による活動。夏季休業中，石巻市立釜小学校において実施する。
地域理解講座（２年）発展フィールドワーク　「地域理解講座」を受講後，さらに発展した探究活動を希望する生徒が行うフィールドワーク。自ら設定した課題に応じて，生徒が主体となって地域や大学等と連携をとり，学びを深める。
ＳＤＧｓ地域課題研究（３年）発展フィールドワーク　「ＳＤＧｓ地域課題研究」からさらに発展的な探究活動を希望する生徒が行うフィールドワーク。自ら課題を設定し，生徒が主体となって地域や大学等と連携して学びを深める。
〇学習の成果の公表，普及
石巻西高校における総学課題研究発表会，まなびフォーラム，みやぎ高校生フォーラム，学校便り「西高実況中継」，公開授業及びＨＰ。また，石巻専修大学，一般社団法人 ISHINOMAKI2.0，東松島市においても成果を発表する場を設け，将来的には圏域全体での連携・協働を目指す。申請事業終了後も石巻専修大学を核としたコンソーシアムにより，地域協働学習活動を推進する。
(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制
石巻西高等学校に設置する地域協働推進委員会が，カリキュラム開発等専門家との連携のもと，総合的な学習（探究）の時間をはじめとする教育活動を系統的に実践し，地域人材を育成できる教育課程の開発を推進する。
(3) 必要となる教育課程の特例等
なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">**⑨その他特記事項**</td><td>「探究する力，論理的に思考する力」等の力をより確実に育成するには，地域の人材や資源を活用し，学校と地域とが協働して行う学びを取り入れることがより効果的であると考えた。また，地域の力を借りて教育活動を体系化することで，教職員が抱える業務がスリム化され，「働き方改革」も推進したい。加えて，学校と地域とが連携する取り組みは従来過疎地域で行われることが多かった。広域圏での地域連携事業という全国でもあまり例のない事業を本研究で行う意義は十分にある。</td></tr>
</table>